

上賢愚心羨錢湯新話
けんぐいしんせんとうしんわ
 板元通油町喜

京傳作



大小の便用



山東先生著

忠臣水滸傳前編 五卷 出来

同後編 五冊 當年出来

繪本智迦良兒布 五冊 出来

花鶴百人一首千代録 出来

○馬鹿夢珍物圖會 山東京傳翁作 袋入一冊 提出未

讀書丸

清覚世道人傳方。丸茶之
賣弘所 江戸山東京傳店

一心賢月とがささひひさこんとつーーのよいころつわうーむ
一生れつきてりのかびんあーささ人り年考てりのこころれを人用て味妙こ
一眼うとみ耳あり歯ありだ口からささうささーいざれすのにうー
は茶いれろろろの学校てりのかびんあーささ書生よあくさあひろさ茶
ありあろろとよむ人よかささささささ人りくらうあわさ人用て
よー又藤りよーりて益あろこかみあろざんのささひさる人用てよ
ととてささぶんの人用あささことささささささささささささささささ
用ひてささ賢月茶あり

○一包代一々五分



夫天地間ハ浴室で看よりと大めして量得がたり

浴盤と彭翁菜と探るが如く一書生法集

恰も泉湯の光景は一般邪心悪念人心乃垢箇々

十泉と以てソソでう濯おすすべき琉球の湯粉朝鮮乃

水花紅毛の天絲瓜皮用るふたごに唯神儒の糖包

佛老の垢帕能心裡乃垢をおとす所沂は浴いぶるご

とい険悍も拗蠻の垢と去り身みもろくけ惛的も

心頃日の垢とけかあしひ玉すあ玉すあ玉す

享和二壬戌春

東都

山東京傳誌



びんづるさん
ぶんとおの
あまのつね
てそのうさ
ちやく

びんづるさん
ぶんとおの
あまのつね
てそのうさ
ちやく
ふんづるさん
ぶんとおの
あまのつね
てそのうさ
ちやく
人の出入をほのぼろい
これらうらやうにわらわたり
てんとうねむりて人のせむい
又けあまのつねにちか
かたがやんぢあれがうら
ありうて出入のふんづる
せむいづるせむいづる
せむいづるせむいづる
てんとうねむりて人のせむい
又けあまのつねにちか
かたがやんぢあれがうら
ありうて出入のふんづる
せむいづるせむいづる



あまのつねにちか
かたがやんぢあれがうら
ありうて出入のふんづる
せむいづるせむいづる
てんとうねむりて人のせむい
又けあまのつねにちか
かたがやんぢあれがうら
ありうて出入のふんづる
せむいづるせむいづる

定

- 一 神儒仏の教は常及まらば父母の命と
かしくお守可申し奉
- 一 身の用公大切この仕ゆり
極老の歩方とんよくの源入らぬ男あひ
うらとと云悪業痛あるは方色里
信入の道は月のみ
- 一 公あおりの風さの席八何時かたは
なぐり才上志まらせや
- 一 命を根そか大切は品法持来りは方
旅の松道は月のみ
- 一 名同利欲のなんぞを痛きごあいら
字もあまのつねにちか
かたがやんぢあれがうら
- 一 竜鬼のうせお石ない
地水火風のあうりおふは

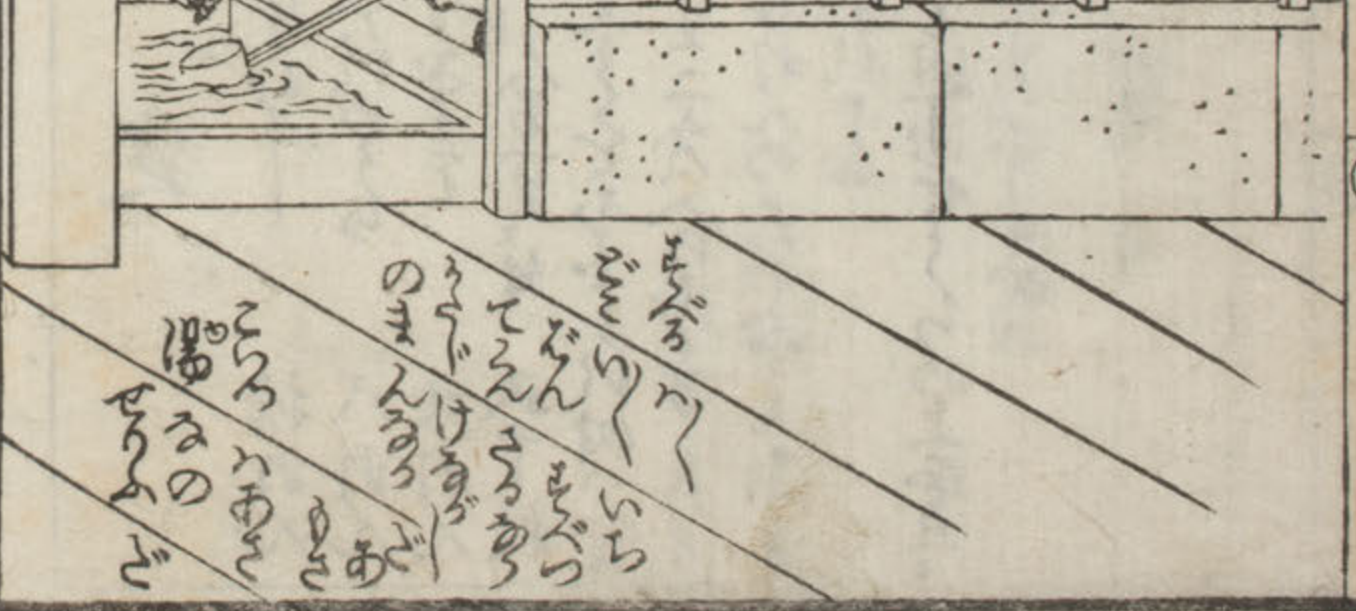
月日

定

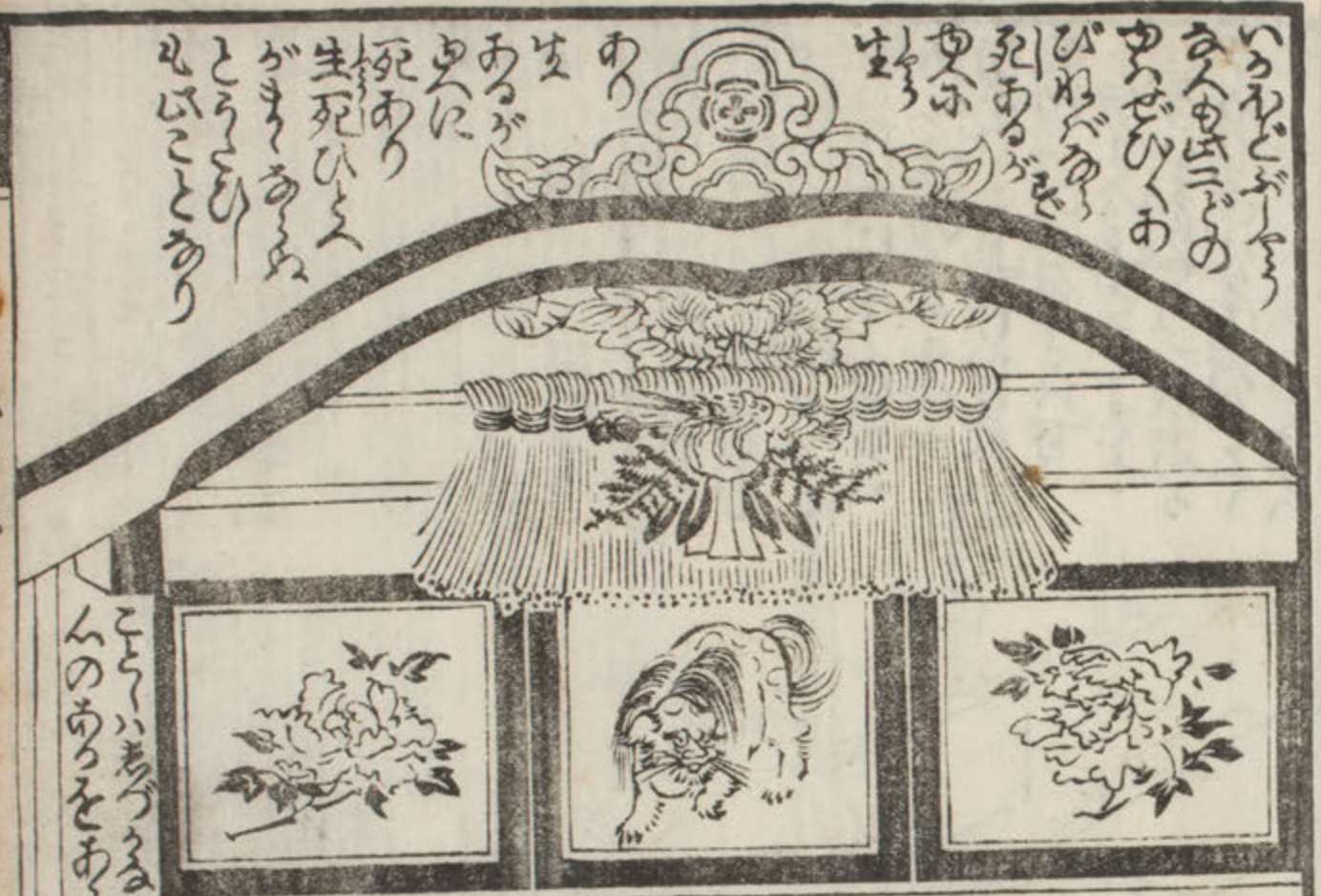
- 一 ひとひり
子依のうら
つらとらと
札
人る生付 又十枚
いんくとわらとら何い
一生二入の歩方となり
百人の志も命もた
されや
- 一 右と通はせうらの上は
世まらり可らぬ

月日

そのくは湯のふちがちをきやうらちと
 ひたひた鬼子母津千人の子といらのまじり
 けむひりことありふちふちも千人万人のを
 かに今ここつばねがうむぎん
 えんふよりして石楯はとあづけたるうへもあふる
 するまがごころいばむのまろくうあつて地獄
 ともあづくろくろくつてく
 ぐろくふくまきあふる人のたのまわく邪ある人
 人のろくろあひやに邪苦勞る處あるべしされ
 たりとたもいやくもゆえ
 いるまのいんごうをけるこれ天地
 志んのもまごうてあうらうらう
 知るんはうもあひび
 てうまれぬるがび
 きんものいばむ
 ありんる人のいばむ
 きんぐまのい
 しかきて死して
 のくうくとう
 るれごとう



まろく
 ざむり
 どん
 てん
 うぐけ
 のまん
 こらん
 湯の
 であ
 であ
 であ



いらむごとう
 きんものいばむ
 ありんる人のいばむ
 きんぐまのい
 しかきて死して
 のくうくとう
 るれごとう

あり
 死あり
 生死ひ
 がま
 とう
 見いことあり

あつて入るゝの世
くさくさせんろうふ
やくこころの世界
よやくにらりあまらふ
のこのあてはまらさう
つらうあひのらあろ
あつて入るゝの世
くさくさせんろうふ
やくこころの世界
よやくにらりあまらふ
のこのあてはまらさう
つらうあひのらあろ



あつて入るゝの世
くさくさせんろうふ
やくこころの世界
よやくにらりあまらふ
のこのあてはまらさう
つらうあひのらあろ

あつて入るゝの世
くさくさせんろうふ
やくこころの世界
よやくにらりあまらふ
のこのあてはまらさう
つらうあひのらあろ

あつて入るゝの世
くさくさせんろうふ
やくこころの世界
よやくにらりあまらふ
のこのあてはまらさう
つらうあひのらあろ

あつて入るゝの世
くさくさせんろうふ
やくこころの世界
よやくにらりあまらふ
のこのあてはまらさう
つらうあひのらあろ



あつて入るゝの世
くさくさせんろうふ
やくこころの世界
よやくにらりあまらふ
のこのあてはまらさう
つらうあひのらあろ

享和二年壬戌新板

<p>通作 合我 和睦香之物 上中下</p>	<p>田樂作 提燈庫 暗夜七扮 上中下</p>	<p>傀儡作 太平記 忠臣講釈 六冊 上中下</p>	<p>馬琴作 野夫鶯兒 歌曲訛 上中下</p>	<p>京傳作 初老了 簡年代記 上中下</p>	<p>春 賢愚 漆錢湯新話 上中下</p>	<p>通氣智之 錢光記 上中下</p>
<p>版元 鶴屋喜右衛門 江戸通油町</p>	<p>諺百首 談 全一冊 出来</p>	<p>養得竹如名鳥圖會 上中下</p>	<p>稿植着 種時二世相 上中下</p>	<p>冬 枯樹花 大悲利益 上中下</p>	<p>夏 諸色 吞込多靈宝縁記 上中下</p>	<p>筆耕作 種時二世相 上中下</p>



中はあぐりもどりくことか
 とほけてみぐざれん人
 ぼらうてまをかげごと
 せることあるあまの由
 かさてまがこれそまぐ
 あり人のまをのよまこ
 とうくまをつけ
 とうをんのまを
 りつてまがざれあは
 あいふらまざりごと
 人のまをのよけごと
 さるものまにあま
 けらんらまのまを
 ぶんぬまざりく
 りつてまがざりく
 まにらまが
 りつてまが
 のまのまが

ひろろあ
 まがま
 こまがま
 まがま

準
貴

225
61
3